

令和3年度事業実績概要報告

社会福祉法人そよかぜの機関紙

第150号

発行2022.7.19
年4回発行社会福祉法人そよかぜ
羽村市栄町3-3-1
042-578-0855
fax.042-578-0466

そよかぜだより



【福祉作業所スマイル工房】

植栽作業が進んでいます

スマイル工房では、花や緑でつつまれた事業所づくりとしてグリーンボランティアによる活動が行われています。事業所は多摩川の河川敷に面しており、遊歩道には散歩やジョギングなどで多くの人が行き交う場所でもあります。

日頃より植栽をはじめとした園芸活動でお世話になっているグリーンボランティアの方から提案をいただき、スマイル工房の方々とひまわりを育てる試みを行うことになりました。梅雨入り前のある日、関心を持った利用者の方々に参加

していただき、グリーンボランティアの方より種まきのやり方などを教えていただきました。種まきでは、利用者の方々が和気あいあいとした雰囲気のなか、丁寧に一粒一粒ひまわりの種を植えてくれました。

例年より早い梅雨明けとなり厳しい猛暑が続き、利用者の方々が植えられたひまわりが、この猛暑を乗り越えられるか心配するところでもあります。夏を代表するひまわりですが、皆さんの思いが込められた花が咲くことを心待ちにしています。

社会福祉法人そよかぜ

令和3年度 事業実績概要報告

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置の発出など、行動制限や感染予防対策等に配慮しながらの事業運営となりました。幸いクラスター発生などの重大事案もなく、各事業とも概ね順調に推移しました。また本年度は、平成29年に社会福祉法が改正されてから初めての理事、監事、評議員の一斉改選が行われ、新役員体制での法人運営となりました。以下、事業所毎の実績概要報告です。

社会福祉事業

福祉作業所ひばり園(就労移行支援=定員6名)

前年度の利用者募集PRが功を奏し、利用定員を超える7名でスタートしました。緊急事態宣言などが発令されている中、実習を積極的に受け入れていただける企業が少ない状況でしたが、オンラインでの企業説明会参加などの機会を設けることができました。ハローワークとの連携により企業見学や実習の機会を作ることができ、5名の就職につながりました。

福祉作業所ひばり園(就労継続支援B型=定員70名)

自動車部品組立作業や農業機械部品個装作業などの主力作業の受注量は年度を通して順調に推移し、繁

忙期には土曜日の臨時出勤で納期を間に合わせるなど、活発な就労支援ができました。他市にある企業内で行う施設外就労も、作業量の増加に伴い週1.5日であったところが2日に増え収入増につながりました。この結果、年度を通した作業収入増により利用者の平均工賃もコロナ禍前の水準を上回ることができました。また、福祉作業所ひばり園の出張所として運営しているリサイクルショップくれよんは、コロナ禍の影響もあり例年に比較して客数は減少しました。そうした中、ビーズ細工や刺し子、雑巾などの自主製品に力を入れた結果、売上増につながりました。

福祉作業所ひばり園(就労定着支援=利用登録者5名)

令和3年4月厚生労働省より、関係機関との円滑な情報共有を目的とした支援レポートの活用が推奨されました。当事業所においても扱いやすい形に整え運用を開始したところ、特に企業や計画相談支援事業所の方から、支援内容や就労状況が分かりやすいと評価をいただきました。また、開所から3年経過したことで利用期限の3年を迎える利用者が始めました。区市町村の障害者就労支援センターへスムーズに支援を引き継ぐことができるよう、早めの情報共有を心がけ業務を行っています。

令和3年度 社会福祉法人そよかぜ決算額

法人全体 事業別収入 268,944,817円

(単位:円)

福祉作業所ひばり園
(本部・就労移行支援・就労継続支援B型・就労定着支援)
189,780,237

指定特定相談支援事業所ゆい4,422,065→

羽村市障害者就労支援センターエール22,770,091→

福祉作業所スマイル工房49,448,249→

資源回収2,524,175→

法人全体 事業別支出 270,283,675円

(単位:円)

福祉作業所ひばり園
(本部・就労移行支援・就労継続支援B型・就労定着支援)
196,551,521

指定特定相談支援事業所ゆい4,041,880→

羽村市障害者就労支援センターエール21,001,096→

福祉作業所スマイル工房46,933,969→

資源回収1,755,209→

法人全体 事業支出別明細 270,283,675円

(単位:円)

就労支援事業 38,233,475	支払利息支出189,796 ←その他の支出90,300 ➡設備資金借入金元金償還支出852,000	人件費163,499,575	事業費8,238,700→	事務費22,294,802→	固定資産取得支出943,250→	積立資産支出 35,941,777
----------------------	---	----------------	---------------	----------------	------------------	----------------------

福祉作業所スマイル工房（就労継続支援B型＝定員40名）

軽作業は、しばらく受注がなかった企業から仕事が入るなど、作業量は順調に増えてきました。他の受注先からの請負作業とも調整し、仕事が途切れることなく年度を通して順調に推移しました。パン・菓子類の製造販売は、前年度に比べ大口の販売先は減少しましたが、小口の定例先が増えたことと、クリスマスやバレンタイン時期に注文をいただく定例先からいつも通りの発注依頼があったため、大幅な落ち込みはなく全体として堅調に推移しました。スマイルカフェは、定番メニューに加え期間限定の飲み物や菓子類を販売しました。メニューに変化が出て、固定客数の増加につながりました。

指定特定相談支援事業所ゆい（利用契約者数107名）

事務処理などの効率化を図るため、PC業務ソフトの改善を総務担当と協力して行いました。この結果、時間の使い方の改善につながり、利用者ニーズへのよりタイムリーな支援ができるようになりました。また、作業所の利用者が、短期入所やグループホーム、ガイドヘルパー（移動支援）などのサービス利用を希望するケースが増えています。住まいや環境が変わっても、ご本人が安心して過ごせるための、支援ネットワークとの連携が一層求められました。新しいサービスの利用が始まり、不安ながらも良くなつたと話されるご本人の表情は自信に満ち溢れていることが多く、私たちも明日のエネルギーを頂いています。

公益事業

羽村市障害者就労支援センター エール（利用登録者152名）

コロナ禍の影響により他機関主催の研修自体が以前と比べ減っていましたが、オンライン開催の研修や連絡会に関しては可能な限り参加をし、受講後は学習した内容等を職員間で共有し、事業所全体の支援力向上を図りました。令和3年度羽村市障害者市役所実習は、年3回実施することができ、延べ9名の方が参加されました。本実習にはエール職員が支援員としてあたり、参加者一人ひとりが企業就労する際に、何が課題でまたどのように配慮があると働くかを把握する機会としています。実習終了後には振り返りの面談を行い、ご本人・関係者と共に、一般就労へむけての取り組みについて相談する場を設けました。

収益事業

資源回収

本年度も地域の皆様のご協力により、回収量は前年度並みが確保でき、売上収入は前年度比約10.7%増となりました。回収作業に際しては、引き続きコロナ禍における基本的な対策（体調管理、消毒、換気、マスク着用等）を講じながらの実施となりました。特に、マスク着用での作業となるため気温や湿度が高くなる季節には、熱中症対策（冷房活用、水分補給等）に十分配慮しました。年度を通して大きな事故等なく事業遂行ができました。

福祉作業所ひばり園 就労移行支援の農作業

羽村市内の産久農園様にお借りしている畠で、3月下旬に種イモの植え付けをし、4月5月には草取りを行いました。2時間ほどやるだけでもクタクタ。農家の方のご苦労の一端を知ることができました。

6月中旬に収穫。収穫はいつもワクワクします。「大きいのあった！」「ハート型のじゃがいもがあった！」など、夢中になって土を掘り返しました。収穫量は約100kgになっていました。その後も計量、袋詰めを行い、やっと販売できます。皆さんに喜んでいただき、無事に完売となりました。

草取りなどの大変さがあるからこそ収穫時の喜び、達成感があり、販売することによって皆に喜ばれ、や

「じゃがいもが収穫できました」

りがいを感じることができました。そして食することで感謝の気持ちや健康について意識の高まりにつながる等も期待できます。

今後も農業を仕事の選択肢の一つと考えるだけでなく、働く喜びを感じ就労意欲の向上につながるよう取り組んでいきたいと思います。



懸命に収穫作業をしている様子。



計量～袋詰め作業の様子。

ICT化が進められています

日本の福祉・医療分野に限らず、あらゆる産業において少子高齢化による労働力不足が懸念されています。これに対応すべく、国をはじめ民間企業でもICT(情報通信技術)化が推し進められています。

福祉のICT化では、例えば高齢者介護の分野において、ケアマネジャーの経験等に左右されずAI(人工知能)が補完する形で質の高いプランを作成したり、

AIが学習してきたデータをもとにその人に適したケアプランに反映したりと、技術の取り組みが全国各地ですすめられています。

高齢者や障害のある方の在宅福祉では、日々の生活にも直結しており、昨今の話題となっているヤングケアラーのように家族の負担は計り知れないものです。ICT化により在宅福祉で家族の負担が

コラム「福祉の時をつかむ」

軽くなることが望まますが実現はまだ先のようです。将来的には、当たり前になるのでしょうか、先日の大規模通信障害の報道では、突然にスマートフォンが使えないことで情報通信技術が担っている役割と影響を強く感じました。まだ、ICT技術には様々な課題はありますが、ICT化により一人でも多くの人が幸せになることが期待されます。

そよかぜホームページ <https://soyokaze-hamura.com>

各事業所からのお知らせ



福祉作業所ひばり園

梅雨が明け、気候も不安定で疲れも出始めている今日この頃、ひばり園では毎年恒例の七夕で気分を盛り上げています。今回は、二人の利用者さんの短冊をご紹介します。「お仕事をがんばってお寿司を買います」この方は4月から働き始め、お金を稼いで好きなものを買える喜びを短冊に書きました。もう一人は、「健康に気を付けて一人旅をする」20年以上ひばり園で働いているこの方は、離れて暮らすお兄さんに会いに行きたいという大きな夢を短冊に託しました。毎日がんばっているみんなの願い事が叶いますように。

リサイクルショップくれよん

春から新しいメンバーが二人加わりました。暑い日は続きますが一層にぎやかになったくれよんです。7/18(月)からタンクトップ100円、Tシャツ・帽子200円など夏に欠かせない商品のセールを予定しておりますので是非お立ち寄りください。併せて、ご提供品もお待ちしております。

●夏季休業8/13(土)～21(日)



福祉作業所スマイル工房

先日、予告なしの避難訓練を実施しました。朝礼中ではありましたが、皆慌てることもなく整然と身を隠し静かに安全に避難することが出来ました。6月から一部のパンの賞味期限を1日にしています(9月末まで)。夏季限定のレモンパン、レモンクリームチーズパン、レモンクッキーは好評販

売中です。カフェでは夏の風物詩マンゴージュースを販売しています。爽やかな夏の味をお楽しみ下さい。なおカフェではパンの注文もお受けしています。皆さまのご来店を心よりお待ちしております。



障害者就労支援センター エール

エールは、社会福祉法人そよかぜが羽村市の区市町村障害者就労支援事業の委託を受け、平成20年9月に開設した就労支援センターです。羽村市在住の障害のある方で、一般企業等への就職を希望されている方やすでに働いている方を対象に、就労に関するご相談や支援を行なっています。

利用時間：月曜～金曜日、午前9時～午後5時。各月の第一土曜日は開所。

※ご相談は予約をお願い致します。

資源回収のお問合せは「そよかぜ」へ。

編集後記

高齢になってきた母親が暮らす家の洗面所に、人感センサーによって点灯する照明が設置されています。その照明には24時間点灯しない場合、管理会社を通じて緊急連絡先に設定されている人(私)に連絡がいくという機能がついています。ICTやIoTなど、すばらしい技術が私たちの暮らしに身近になってきました。しかし、人感センサー照明があるから安心ではなく、もっとマメに会いに行く時間を持たなくてはと思いつつ直す今日この頃です。

各事業所の連絡先



社会福祉法人そよかぜ事務局

☎ 042-578-0855

福祉作業所ひばり園

☎ 042-555-5512

福祉作業所スマイル工房

☎ 042-578-2723

リサイクルショップくれよん

☎ 042-578-2575

羽村市障害者就労支援センター エール

☎ 042-570-1233

指定特定相談支援事業所ゆい

☎ 042-555-5512